

2012年11月24日 多摩大学大学院 経営実学志塾 「図で考える人は仕事ができる！～「図解思考」事始め」

政府の方針を図解にすると国民に対して親切で且つ理解を得られやすくなるのが、改めて分かりました。教育現場において、子供たちに、「課題を解決していく能力、態度を身につける」指導とは、つまり「図解」できるか否かということだと感じました。

会社内では、文章もなく会話で空中戦を行っているな
と思い、文章に書きそれを元に議論するよう行ってきました。今回、図がいかに大切か再認識しました。

「実践マニュアル・知的生産の技術」を拝読してから、先生の本のファンになりました。「考える力の欠如」が日本の問題であるとの見識に同感です。今後も図解の研究会に参加を希望いたします。

図を訓練する場があれば是非参加したい。

中堅社員になり、解決力が求められるようになりました。今回の講義はまさに「目からウロコ」で、実際にやってみようと思います。

非常に興味深かった。同じ課題を実施した方と比べると、全く違った。目の付けどころや考えの出発点などが全く異なり、お互い、見えていない部分があることも分かった。仕事に活かしていきたいと思う。

箇条書きの、大、小、重なり、関係性が不明なので駄目だとのご説明は、ストンと腑に落ちました。まずは、先生の著書を帰り道で数冊購入し読んでみようと思います。

とてもわかりやすく「今まで腑に落ちなかった理由」がよく理解できた。前半の講義も楽しかったが、後半の体験図解が一番腹おちできた。「全体を理解する」ために、まずは全体を「見る」ことが大事なのだなと思った。

日本語教育に関係しております。外国人に「日本語で日本語を教える」直説法です。学問者へのプレゼンのテクニックとして図解が必要になっております。教案(授業指導室)作成で、いつも図解でつまっております。

文章の曖昧さが良く分かった講義であった。図解の授受養成も十分に理解できた。ミニ演習で一つの文章でも、読む人の受け取り方が大きく異なっていた事に興味深々。

プロセスを顧客と共有することがよこばれた。説明するのに使う資料を作成するのに、本日は役立ちました。